視覚障がいのある方

災害時は普段と周囲の状況が大きく変わります。
言葉で周囲の状況を具体的に説明しましょう。

- まず一声かけて、支援者の存在を知らせ、どのような支援が必要か本人に尋ねましょう。
- 誘導する時は、ひじの上（腕）あたりを軽く握ってもらうか、肩に手をのせてもらいゆっくり歩きましょう。段差などの障害物がある所では手前で立ち止まって、説明しながら進みましょう。（狭いところは一列で）
- 情報を伝える時は、「道路に落下物があります」「５メートルほど先を左の方向に曲がります」など具体的に状況を説明しましょう。方向を示すときは、時計の針の位置（クロックポジション）で示す方法もあります。（右は３時、左は9時、正面は12時など）
- 盲導犬を伴っている方に対しては、方向などを説明し、まわりの人が盲導犬を引いたり触ったりしないようにしましょう。
- 白杖（はくじょう）を使用されている場合は、白杖と反対側に立ちましょう。
- 笛やブザーなど、助けを呼ぶものを身近におき、メガネ、折り畳み式の白杖などの予備を非常持出品の中に加えておくようアドバイスしましょう。

聴覚・言語機能障がい等のある方

周囲の状況や緊急事態がわからなかったり、声を出して助けを呼べない場合があります。家の中に取り残されていないか安否確認を徹底しましょう。
身振り手振りや筆談、パソコンや携帯電話の文字表示など、あらゆる手段を使って情報を伝えましょう。

- クラクションが聞こえなかったり、倒壊する前兆の音が聞こえなかったりして危険な場合があります。生命を守るのに必要な情報は必ず伝えるよう配慮しましょう。
- 言語機能障がい等のため言葉が聞きとれない場合は、分かっているふりをせず、「もう一度お願いします」ときちんと伝えるようにしましょう。
- 非常持出品の中に、補聴器用の電池・バッテリー・充電器、筆談のためのメモ用紙、筆記用具、笛や警報ブザーを加えておくようアドバイスしましょう。

内部障がいのある方・難病の方

外見からは障がいなどがわかりにくく、医療的なケアが必要な方には、緊急的に医療機関への連絡や移送の手配が必要になる場合があります。

- 内部障がいがあることや難病であることが外見からはわかりにくいため、体調が悪くても周囲にそのことを言えず苦しんでいる場合があります。体調の変化に十分な配慮が必要です。
- 人工透析を受けている方、人工呼吸器・酸素ボンベ・ストマ装具を使用している方、栄養チューブを挿入している方などがおられます。医療機器等を常に持ち歩く必要があるため、避難時に運搬の手助けが必要となります。また、振動や停電により医療機器が故障したり、停止するなど、生命にかかわる場合があります。救急隊や医療機関等との連携がなければ搬送が難しいことも考えられます。事前にどういった機関の支援が必要か、本人や家族などと話し合っておきましょう。

- 非常持出品の中に、服用している薬、医療的ケアに必要なものを加え、かかりつけ医療機関や薬の名前のメモ（おくすり手帳）、装具のメーカーや品名のメモ（Ｐ29「防災カード」を活用）を入れておくようアドバイスしましょう。

重症心身障がいのある方

家族など普段から介護をしている方に必要な支援を尋ねましょう。
医療的なケアが必要な方には、緊急的に医療機関への連絡や移送の手配が必要になる場合があります。

- 手や足などに重複の障がいと重度の知的障がいがあるため、自力で移動したり、座った状態を保つことが難しく、ほとんどの方は常に介護が必要です。移動する時は、抱えてもらったり、バギーと言われるリクライニングのできる大きな車いすを使用されています。
- 意思表示が難しい方や、呼吸することや栄養摂取が難しく、常に医療的ケアを必要とする方もおられます。
- 避難時には医療機器等の運搬に手助けが必要となります。
  救急隊や医療機関等との連携がなければ搬送が難しいことも考えられます。事前にどういった機関の支援が必要か、本人や家族などと話し合っておきましょう。
- 振動や停電により医療機器が故障したり、停止するなど、生命にかかわる場合があります。
- 非常持出品の中に、介護用品や医療的ケアに必要なものを入れておくようアドバイスしましょう。